



### 津山市地域おこし協力隊

## 山田 精一さん (林田)

平成29年4月から津山市地域おこし協力隊として、千葉県から津山市にUターン。プロジェクトマネージャーとして民間企業で培った経験を生かし、中心市街地の活性化を図るため、空き店舗の活用など、津山市中心市街地活性化協議会が行う企画や運営の支援などに取り組む。



まちなかさろん再々(堺町)に設置している「まちライブラリー」で利用方法を説明する山田さん



ソシオー一番街で定期的開催している「はじまるシェ」



### 津山市地域おこし協力隊になろうと思ったきっかけは？

前職の社会貢献活動で、ひとり親家庭対象のキャンプの活動に携わっていました。子どもたちと本気で向き合う中で、学ぶべきことや多くの気づきがあり、たくさんの大人が子どもの成長に携わる仕組みづくりが必要であると感じるようになりました。

その思いを胸に、子育て支援のNPO法人に転職し、社会全体で子どもたちを育てる学びの場を企画・運営してきました。アパレル企業との子どもファッションショーや、食品会社との環境に優しいおやつ作りの食育授業など、全国で本物に触れる体験の場を開催するうちに、地方でもさまざまな分野の人をつないでまちを活性化させるコーディネーターが必要であると思い、地域おこし協力隊に応募しました。

### どのような活動をしていますか？

まちなかを、誰でも気軽に集まることができる場として活用したいと考え、参加者みんなで作り上げていく「はじまるシェ」という朝市や、本の魅力を伝えることで人と人がつながる「まちライブラリー」を始めました。

はじまるシェは、回を重ねるごとに口コミなどで魅力が広がり、まちなかで活動したい人が徐々に増えているので、手応えを感じています。

### 津山の皆さんにメッセージを

地域全体で子どもたちの育ちを考えることは、地域の未来を考えることにつながると 생각합니다。子どもから大人まで多くの方がまちなかに集まり、地域の未来を考える機会を増やしていきたいです。皆さん、ぜひ、まちなかに遊びに来てください。

春や秋の心地よい気温と天候が好きなのは、冬の厳寒や夏の酷暑が通り過ぎるのを必死に耐えています。しかし、春秋の心地よい時間はあつという間で、この文章を書いている4月下旬ながら、すでに全国で真夏日を観測しています。「日本には夏と冬しかないのか!」と思ってしまう、今日この頃です。(W)

異動して初めての撮影は加茂郷マラソン。成果は散々。くじけるわたしを励ましてくれたのは、ランナーや沿道の皆さんの笑顔でした。たくさんの素敵な笑顔やお話を届けられるように、カメラの使い方や文章の作り方、取材の仕方…先輩たちに教えてもらいながらがんばっていきます。よろしくお願ひします。(C)

6月頃から、市内でもホテルが飛び回る光景を目にすると思っています。昔、子どもと夜に散歩をしていた時、澄んだ水辺の宵闇を優しく照らすホテルの舞いを見て、とても感動しました。今年ホテルの撮影に挑戦したいと思います。何度も失敗するかもしれないので、天候の良い日が続くといんだけど…。(C)

